

病院フォーミュラリー インフルエンザウイルス薬（治療、成人）

腸管吸収障害の有無

なし

内服

可能

不可能

あり

吸入

可能

不可能

タミフル（カプセル/DS）

⇒腎機能による用量調節が必要

5日間の内服が困難な場合：

ゾフルーザ錠20mg

（仮採用、呼内科限定）

イナビル吸入粉末剤**ラピアクタ点滴静注150mg**

⇒腎機能による用量調節が必要

- タミフル（カプセル/DS）を第1選択薬とする
- 重症患者で、内服、吸入が不可、確実な投与が求められる場合、ラピアクタを選択する
- 妊婦・授乳婦についてはタミフルが第1選択、イナビルが第2選択
（ゾフルーザ、ラピアクタについて安全性のデータなし、基本的に使用しない）

【相互作用（併用注意）の比較】

- ・タミフルとゾフルーザのみワルファリンと併用注意

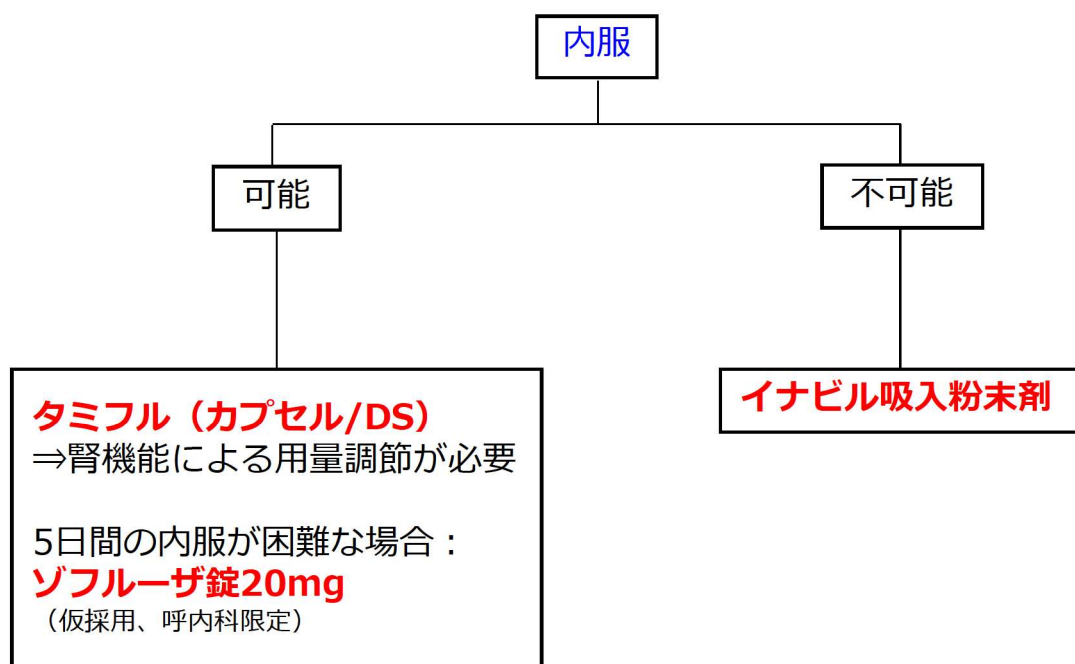
タミフルについては併用下でも臨床的には大きな影響はないとの報告あり。

国内における報告された出血関連症例はタミフルで30例（因果関係が否定できない症例は3例）、ゾフルーザでは転帰死亡3例を含む25例（同:13例）となっている。

【参考】

商品名	一般名	先発/後発	剤形	1日投与回数	投与日数	総薬剤費（※）
タミフル	オセルタミビル	先発	カプセル	2	5	¥2,422
イナビル	ラニナミビル	先発	吸入	1	1	¥4,359
ゾフルーザ	バロキサビル	先発	錠剤	1	1	体重80kg未満 ¥4,877.6
						体重80kg以上 ¥9,755.2
ラピアクタ	ペラミビル	先発	注射	1	1	¥6,800

※成人において治療1クールにかかる薬剤費の目安



- タミフル（カプセル/DS）を第1選択薬とする
- 妊婦・授乳婦についてはタミフルが第1選択、イナビルが第2選択（ゾフルーザについて安全性のデータなし、基本的に使用しない）

【相互作用（併用注意）の比較】

- ・ タミフルとゾフルーザのみワルファリンと併用注意
タミフルについては併用下でも臨床的には大きな影響はないとの報告あり。
国内における報告された出血関連症例はタミフルで30例（因果関係が否定できない症例は3例）、ゾフルーザでは転帰死亡3例を含む25例（同:13例）となっている。

【参考】

商品名	一般名	先発/後発	剤形	1日投与回数	投与日数	総薬剤費（※）
タミフル	オセルタミビル	先発	カプセル	1	5	¥1,211
イナビル	ラニナミビル	先発	吸入	1	1又は2	¥4,359
ゾフルーザ	バロキサビル	先発	錠剤	1	1	体重80kg未満 ¥4,877.6
						体重80kg以上 ¥9,755.2

※成人において予防1クールにかかる薬剤費の目安